大阪の伝統・いま・未来を考える建設文化情報誌

社団法人 大阪建設業協会

O-WAVE

オーウェーブ

vol. 61

2008 SPRING & SUMMER

対談 OSAKA粋談放談

ゲスト◆桂 あやめ さん

おおさか なう 路面電車を選択する堺市

特集 OSAKA PRESENTATION 新しい街づくりを推進する堺

ドキュメント 天地創造夜明け前 大阪府立大学総合教育研究棟新築整備工事

粋談放談 OSAKA

新会長のフレッシュ・トーク

会員会社の皆さんのために尽力したい（奥村会長）
女性落語家のための道を開きたい（桂あやめ）

社団法人 大阪建設業協会 会長
奥村 太加典

VS

落語家
桂 あやめ さん

責任の重さを痛感 新会長に就任

奥村　本日は、ご多忙中にも関わらずO-WAVEの対談にお越しくださいましてありがとうございます。

あやめ　こちらこそお招きくださいましてありがとうございます。会長さんはこのたび新しく会長に就任なさったとお聞きしております。通常のO-WAVEでは、会長さんがホストで私がゲストということのようですが、編集部から「新しい会長に抱負などをお聞きするように」と、

Profile

奥村（おくむら）　太加典（たかのり）

昭和37年（1962年）3月15日生まれ、奈良県出身。昭和61年3月中央大学理工学部土木工学科を卒業し、同年4月（株）奥村組入社。平成6年（1994年）6月同社取締役、平成13年4月同社常務取締役、同年12月同社代表取締役社長就任、現在に至る。主な団体・公職歴は、（社）日本建設業団体連合会の常任理事、（社）日本土木工業協会、（社）建築業協会、（社）日本道路建設業協会、（社）日本電力建設業協会、（社）日本海洋開発建設協会、（社）日本鉄道建設業協会、（社）海外建設協会の各理事、平成20年2月（社）大阪建設業協会の会長に就任。

粋談放談 OSAKA

会員の皆さんに何をしてさしあげられるか この機会に考えてみたい（奥村）

申し付かっておりますので、つたないインタビュアーにしばらくお付き合いください（笑）。

まず新会長に選任されまして、ご感想をお聞かせください。

奥村　社団法人大阪建設業協会は今年で創立100周年という記念すべき年を迎えます。そういう節目の時に、たまたま会長という重責を申しつかりましたわけで、身にあまる光栄であるとともに、その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いをしているところです。

平成20年度（第33回）定時総会　写真提供：大阪建設工業新聞社

あやめ　会長さんは建設業界の現状をどのようにお考えなのでしょうか。また、そうした状況の中で、どのような展望をお持ちなのでしょうか。

奥村　建設業界はピーク時には約84兆円の規模でしたが現在は約52兆円と、40％もダウンしているにもかかわらず、就業人口はピーク時には685万人いましたが、現在でも550万人と20％のダウンにとどまっており、大変厳しい状況に置かれています。今後の展望ですが、業界としてはコンプライアンス（じゅんしゅ）を遵守し、コストだけではなく技術力を駆使することで、私たちに与えられた社会的使命をいま一度、自覚することが大切ではないかと考えています。

あやめ　そうした厳しい中、会長に就任されたわけですね。会長としてまず何をなさりたいとお考えですか。

奥村　当協会の存在意義を明確にしていきたいと考えています。つまり、せっかく縁あって会員になられた皆さんですから、協会として何をしてさしあげられるか、それを考えていきたいと思っています。たとえば、協会の情報だけでなく国土交通省や自治体の情報などをすみやかに配信できるシステムの整備などですね。

あやめ　ちょうど私たちと上方落語

Profile

桂（かつら）　あやめ さん

神戸市出身。上方落語協会員。昭和57年（1982年）、桂文枝（五代目・故人）に入門。女性に落語はできないという固定観念の壁に、自作の落語で風穴を開けた。OL、女子高生、おばちゃん、嫁姑など身近な女性を主人公にしたネタを創作し続けている。平成11年（1999年）に林家染雀さんと結成した音曲漫才ユニットや、三味線とバラライカを手に小唄、都々逸、阿呆陀羅経などに時事ネタを折り込んだ舞台など落語以外の分野にも芸風を広げている。平成17・19年にロシア・ウクライナ、ドミニカ共和国で海外公演。洋装でのシャンソンショー「エクスタシーいくよくるよ」は、東京のマニアの間でも好評。■主な受賞歴：昭和62年ABC漫才落語新人コンクール第8回最優秀新人賞。平成9年第1回大阪市きらめき賞咲くやこの花賞大衆芸能部門。平成12年大阪市女性基金プリムラ賞。平成14年文化庁芸術祭演芸部門優秀賞など多数。

女性への門が少しでも開かれているなら そのわずかな可能性にかけてみよう、と思った（あやめ）

協会のようなもので、「どこそこで○○師匠の勉強会があるで」とか、「こんな仕事の依頼がきてるけど、だれかやらんか」とか、そんな感じでしょうか（笑）。

奥村　はい。とても分かりやすいたとえだと思います（笑）。

さて、私の話はこれぐらいにして、あやめさんのお話をお聞かせいただきましょうか（笑）。

落語との出会い
落語のテンポが合っている

奥村　落語との出会いは何だったのですか。

あやめ　中学の時に学校の講堂で落語鑑賞会があったのですが、それが最初の出会いですね。普通の中学生と同じように、落語といえば難しくて古臭いというイメージを持っていたのですが、実際聞いてみるとけっこう面白かった。最後にオチを言ってみんなドッと笑うときに、落語家さんはすました顔で何もなかったように引き上げていく。その姿が何ともかっこよかった。高校生になると漫才ブームがやってきました。友人たちとよく演芸場へ出かけました。たくさんの漫才に混じって、落語の出し物もひとつかふたつありました。それを見ながら、漫才も面白いけれど、落語のテンポが自分には合っているなぁ、と思うようになり、次には好んで一門会などに通うようになったんです。

奥村　みんなが、さんまだ、たけしだ、紳助だと言っているときに、ひとりだけ文枝はエエ味出している、とか言っていたわけですね（笑）。

あやめ　女子高生の落語ファンなんてちょっと見かけませんよね。熱狂的落語ファンが高じて、さらにはこれを職業にできたらいいな、と思うようになったんです。高校卒業の18歳の時です。

奥村　女性の落語家などほとんどいない時代でしょう。

あやめ　周囲の人たちに意見を聞いても、「落語は男の世界やから、やめとけ」とみんなに口をそろえて反対されました。ただ、歌舞伎のように女性はダメという決まりはないんですね。ないということは、まだ可能性が残されているということです。それで当時は小文枝と名乗っていました文枝師匠の所へ弟子入り志願に行ったわけです。こういうケースでは今でもやんわりと断るのが普通ですが、たびたび寄席に顔を出していたこともあって、「まぁ上がんなはれ」と通してくれました。「どうしてもやりたいんか」「はいやりたいです」「弟子に運転免許を持ってる奴がおらんので外出に難儀し

てんねん」「免許とったら弟子にしてくれますか」……そんなやりとりがあって、「師匠、免許とってきました」（笑）と。断るわけにもいかないし、「ほなら、いっぺん来てみるか」と晴れて桂一門に入門となったわけです。

男の世界で孤軍奮闘 そして見つけた可能性

奥村　建設業の世界では、技術は教えられるものではなく、親方から盗むものと言われてきました。現在では社員教育カリキュラムが整備されていますが、落語の場合はどうなのですか。

あやめ　落語の稽古（けいこ）は、師匠が目の前で演じてくれるのを見て覚えるんです。憧れの師匠が目の前で私のためだけに演じてくれる、こんなぜいたくなことはありません。ボーッと聞き惚れていると、いきなり「ほな、やってみ」って（笑）。落語では何人もの登場人物を左右への向きや声の調子で演じ分けるのですが、どの角度に向いたらいいのか、どんな声を出せばいいのかさえ分からない地点からのスタートでした。私が入門した時に女性の先輩が一人いたのですが、産休で休業中。つまり、私にはお手本となる見本がどこにもなかったのです。そして自分で落語をやればやるほど、落語というのはやはり男性が演じるようにできているのだなと痛感し、私の前に大きな壁となって立ちはだかったのです。

奥村　男の壁ですね、どうやって克服されたのですか。

あやめ　いままでの落語では男性がとても魅力的に演じられていました。その分、女性は脇役でした。しかしひとたび現実を見渡せば、女子高生はぶりっ子してるし、嫁姑（よめしゅうとめ）は味わい深いバトルを演じてくれているし、面白い女性がたくさんいる。こうした女性を演じたらええんや、と創作落語に可能性を見つけたんです。それは私にしかできない世界でもあったんです。何しろ面白い女性はいっぱいおるから、題材にはことかきません（笑）。

女性の参入を期待したい 落語界と建設業界

奥村　建設業も男の世界というイメージが強いのですが、私としては女性に大いに期待しているのです。

あやめ　現在、落語家は主に東京と大阪に約６００人います。そのうち女性は約20人。関西では約２００人落語家がいて、女性は10人足らずしかいません。

建設業界も男性の世界というイメージが強いが私としては女性に大いに期待している（奥村）

女の落語家もおってよかった
そう言われるように後進のための道を開きたい（あやめ）

平成6年6月、3代目桂あやめを襲名。写真は襲名披露の会

奥村　昔は山岳トンネルの現場は女性の入坑禁止という時代もありました。なんでも山の神様が女の神様で、女性が入坑すると嫉妬して事故が起こるという迷信がまかり通っていたのです。今では女性エンジニアが最前線で活躍していますが、それでも全体としてはやはり少ないですね。もっともっと参入して欲しいと私は思っているんです。女性ならではの感覚・感性が活かせる職業でもあるのです。たとえばかつて、男性設計マンが設計したビルで女性トイレがやたらに混雑するという現象がありました。設計上での計算では十分足りているのに混雑するのです。やはり所要時間とかスペースとか、細かな配慮が足りなかったのですね。

あやめ　東梅田の「うめだ花月」という建物は、とてもおしゃれな建物なのですが、トイレの場所が分かりにくく、迷路のような通路を進んでやっと辿り着くんです。そうなると大阪のおばちゃんは黙っていません。「何や、この分かりにくいトイレは……」（笑）。舞台の上にまで大きな声が聞こえてくるんです。

奥村　建物内の案内サイン板ひとつとっても、そのデザインはどうか、設置する場所はどうか、使う人の立場に立った細やかな配慮が必要なのに、男性の場合はどうも乱雑過ぎる傾向が強い。女性が活躍できる場所はたくさんあると思うのです。

昭和57年11月、桂花枝（はなし）の名で初舞台。写真はデビュー当時

あやめ　天満天神繁昌亭の建設の時、女性落語家に「内装の色はこんなんでどうやろ」、と相談がありました。女性だから気が付くことがたくさんあったので、「ここはこうした方がええ」とか、「風水的にこうや」とか意見を言うたびに、三枝会長は「わぁ、設計変更や」と私たちに振り回されながらも、意見を聞いてくれました（笑）。そして最後には、「記者会見の時の羽織の色はこれでええやろか」など、女性の意見に耳を傾けてくれるようになったんです。それでも10人足らずでは、まだまだ文化になりきれません。「女の落語家もおってよかったなぁ」、そう言われるように後進のための道を開きたいと考えています。

だれも想像できなかった盛況
天満天神繁昌亭・建物のチカラ

奥村　繁昌亭のお話がありましたが、ずいぶんの盛況ぶりですね。

あやめ　落語専門の定席が欲しい、それは上方落語界の悲願でした。けど、そんなんつくっても流行れへん、と誰もが思っていました。三枝会長や天神橋筋商店街の土居会長さんたちが、「そんな悲観的なことばっかり言うてても前へ進めへん。つくりながら考えようやないか」と、悲願の実現へ向けて進み始めました。当時、落語家が集まると、「おいおい、ほんまにできてるで」と、期待と不安でいっぱいでした。

奥村　ところが、幕を開けてみると大盛況だったわけですね。

あやめ　運営にあたってはいろんなことにチャレンジしようと話し合いました。昔は落語というのは旦那衆の粋な遊びという面がありましたから、ターゲットは男性と決め付けて、休日の昼間か平日ならお勤めが終わった後の夕方開演が普通でした。繁昌亭では、朝席、昼席、夜席、レイトショーなどがあります。私たちの方が驚いたんですが、平日の朝や昼に落語を聞きに来てくれるお客さんがこんなにいっぱいおったんやって。朝・昼は女性が自由に使える時間ですから、80％は女性客。朝に落語を楽しんで、昼から天神橋筋商店街で買い物して……というお客さんや、遠方からの観光のお客さんなどさまざまです。

奥村　笑いは健康にも良いといわれています。繁昌亭の成功は周囲への経済波及効果も大きいでしょうし、元気な大阪の、あるべき姿のお手本のようなものですね。

あやめ　出し物が終わると出演者全員でお見送りするわけですが、皆さん笑った後の晴れやかな顔でお帰りになっています。そんな笑顔に私たちの方もパワーをいただいているんです。そしてパワーといえば、建物がひとつできるだけで、状況がこれほど一変することへの驚き。建物のチカラというものを再認識しました。ここへ行けば、仲間がいる。若い人はここへ来れば、いつでも一日中勉強できる。従来ですと、同門の人でもなかなか会う機会・場所がないのに、他の一門となるとほとんど没交渉状態でした。それがこうした建物がひとつできるだけで、楽屋で一緒になり、意気投合して一緒に企画を考えるなど活発な交流が増えてきました。

奥村　建物のチカラ……そう思っていただけることは、造っている者にとって、なによりもありがたくうれしい言葉です。そろそろ時間がきたようです。本日はほんとうにありがとうございました。これからもますますのご活躍をお祈りしております。おあとがよろしいようで（笑）。

建物のチカラ……そう言っていただけることは造る者にとってはなによりありがたい言葉（奥村）

懸案の交通インフラに路面電車を選択する堺市

低床式で段差がないうえ、二酸化炭素（CO_2）など温暖化ガス排出量も少なく、人にも環境にもやさしい次世代型路面電車による交通システムが堺市に登場する。南北方向の鉄道網が発達してきた同市で、従来から課題とされてきた東西方向の鉄道整備に、低床式車両による「ライト・レール・トランジット（ＬＲＴ）」を導入することが決定。既存の路面電車、阪堺線との相互乗り入れも計画されるなど、公共交通機関として市民の利便性も一層高まるうえ、沿線の活性化にも役立つと期待されている。

歩行者の増加で街の創出にも一役

ＬＲＴは、通常の鉄道と路線バスの中間の輸送力を持つ中規模型公共交通機関だ。路面走行が基本になるため、用地買収などの必要性が少なく、地下鉄などの都市交通に比べ建設費を大きく抑えられるという利点がある。さらに運用次第では利便性の向上のほか、景観形成や街のシンボル化、それらを通じての地域活性化に結びつきやすいという側面も兼ね備えているのが特徴だ。

堺市関係者によると、低床式なのでお年寄りなどにやさしいのはもちろん、車イスやベビーカーもそのままで乗車できるし、そのバリアフリー性を生かして停留所をバスと共有することで乗り換えがスムーズになる。パーク・アンド・ライドやトランジット・モールによって中心市街への自動車の進入を抑制し、渋滞の解消や路上駐車の削減と、それによる安全性のアップ、歩行者の増加による界隈の賑わいも演出できるなどのメリットがあるという。

電車方式なのでCO_2排出も少なく、人と環境にやさしく地域活性化につながることから、欧米各都市ではすでに導入がかなり進んでおり、日本でも交通政策上だけでなく都市政策上の観点からも、次世代型の都市交通インフラの切り札の一つとして位置づけられている。

全体計画区間は、シャープが進出する堺臨海地域「堺浜」とＪＲ阪和線「堺市」

海外でのLRTの導入事例

ストラスブール（フランス）

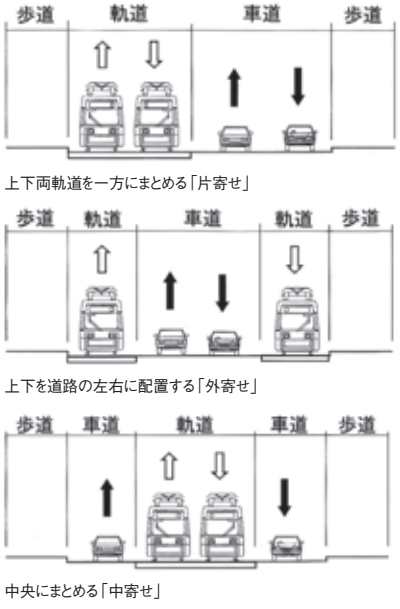
クロイドン（イギリス）

堺市建築都市局鉄軌道 編集・発行『東西鉄軌道の実現に向けて』より

人と環境にやさしい路面電車LRT

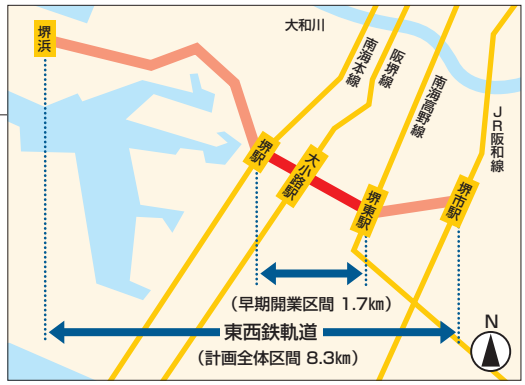
ライト・レール・トランジット（Light Rail Transit）の略。いわゆる「チンチン電車」のような従来型路面電車の走行性能や走行環境などを大きく引き上げた点に特徴がある。停留所との段差がなく低騒音・低振動で乗り心地がよいうえ、二酸化炭素（CO_2）排出量もわずかなど人と環境にやさしい交通手段とされている。

■ 3つの敷設方式



り入れできるようにする。

全体区間のうち臨海部「堺浜」―「堺東」駅間6・7kmを段階整備区間と位置づけ、そのうち都心部である「堺」駅―「堺東」駅間の1・7kmを早期開業区間として優先的に事業に着手する方向だ。



駅間を結ぶ約8・3km。南海本線「堺」駅と阪堺線「大小路」駅、南海高野線「堺東」駅、JR「堺市」駅の4駅を経由し、東西方面の移動しやすさと既存鉄道との連絡をはかっている。また、「大小路」駅付近では阪堺線と相互乗

「公設民営」方式で堺市が敷設、鉄道会社が運営

軌条や架線の建設、車庫・変電所、車両自体の購入、停留所などインフラ施設の建設は市が実施し、実際の運行・軌道運営は運賃収入に基づいて軌道事業者が行う「公設民営方式」で運営する予定だ。

一方で、財政支出が伴う公設の「市電」であるだけに、街づくりとの連携や市民との合意形成、生活の利便性がどれだけアップするのかなど市民の理解の促進も重要だ。LRTの有効性と導入の効果や、市内東西鉄道の必要性などをさらに訴えていく必要もあるだろう。

平成19年2月に市が経営予定者を公募したところ、南海電気鉄道と、一時は阪堺線の堺市区間の廃止を市に申し出ていた阪堺電気軌道の二社が共同事業計画案を提出。7月に両者が運営主体として決定されたことから開業実現に大きく踏み出した。LRTに本業の鉄道事業者が可能性を見出した格好になったわけである。

市ではかつて、地下鉄構想などもあったが、低コストのLRTの導入によって懸案だった東西軸の整備が固まった。車社会への移行によって各地の路面電車は次々と姿を消していった。しかし路面電車をあえて導入する堺市の未来の姿に期待したい。

市民活動も後押し
『堺のチンチン電車を愛する会』

「みんなで乗ろうチンチン電車。人や環境にやさしい、100年近くがんばってきたチンチン電車。お客さんがなくなってきたから、なくなるの?チンチン電車は堺の宝物」。こんなキャッチフレーズで活動しているのが、「堺のチンチン電車を愛する会」(会長、堀畑好秀堺商工会議所副会頭)。阪堺電気軌道が、平成15年阪堺線の堺市内区間廃止の意向を堺市に申し出たことを受けて、地元経済界や市民らが存続に向けて立ち上げたのが「愛する会」だ。堺商工会議所や自治会連合会、連合などの労働組合までも発起人に名を連ね、同年12月に発足した。

■ 堺市・東西鉄軌道(LRT導入)計画の経緯

平成 2年	南北方向にかたよる鉄道交通の是正とその方向性を探るため「堺市公共交通懇話会」設置。
平成 6年	堺市公共交通懇話会が「鉄軌道整備のあり方について」を提言。 「鉄道軌道整備基金」設立。
平成11年	導入機種として、LRTの調査開始。
平成15年	「堺市公共交通懇話会」を再編し、東西鉄軌道におけるLRT導入の可能性について検討。 阪堺電気軌道の堺市区間廃止の申し出を受けて、「堺のチンチン電車を愛する会」が発足。
平成16年	堺市公共交通懇話会が「東西鉄軌道の実現に向けて」を提言。 国交省諮問機関の近畿地方交通審議会の答申で、中長期的に望まれるLRT関係路線に位置づけられる。
平成19年	堺市がLRT早期開業区間の経営予定者として南海電鉄と阪堺電車に決定。
平成22年度	開業予定

OSAKA PRESENTATION

大阪プレゼンテーション

「黄金都市」の復活を目指す堺市

先端産業の整備と、歴史・文化面の特色を活かし新しい街づくりを推進する堺

平成18年（2006年）に大阪府下で大阪市に次いで二番目の政令指定都市に昇格した堺市。
翌年には臨海部にシャープの液晶パネル工場が現実のものとなり、
官民ともにそれに沿った独自の事業を整備・展開。
一方で、巨大墳墓が集中する地域性を高めようと、世界文化遺産登録への歩みも始まった。
先端産業と歴史・文化の両面から、
かつての「黄金都市」復活と「新しい自由都市」の構築を目指す堺市の今を見た。

自治都市としての伝統を今に伝える堺の歴史

堺の歴史は古く、しかもバラエティにあふれ、市内各地にある遺跡や社寺、街並みなどにそれらを感じ取ることができる。

5世紀には世界でも最大級の墳墓、仁徳陵古墳が築造され、中国などに当時の王権の威厳を示すランドマークとしての威容を誇った。613年頃には国内最古の官道（国道）とされる竹内街道が開通。その後の飛鳥時代に、摂津・河内両国に属することになった。大宝4年（704年）には名僧・行基が家原寺を開き、「知恵の文殊さん」として受験シーズンには多くの合格祈願参拝者が訪れるなど現在でも親しまれている。

木造の洋式灯台

三好長慶によって建てられた南宗寺

中世になるといわゆる「黄金の都市・堺」の時代に入る。環濠に囲まれた自治都市として栄え、天文19年（1550年）には宣教師フランシスコ・ザビエルが来堺したほか、三好長慶が弘治3年（1557年）に名刹・南宗寺を建立。その20年後には織田信長が視察に訪れている。その後、豊臣秀吉により環濠が埋められ堺商人も大阪に連れ出されたうえ、慶長20年（1615年）の大阪夏の陣で焼かれるなど悲劇の歴史をたどった。

近世・現代に堺は甦る。「堺事件」が起こった明治元年（1868年）には堺県が創設。明治10年（1877年）には海岸沿いの大浜に日本で最古といわれる木造の洋式灯台が建てられた。

昭和20年（1945年）の第二次世界大戦による堺空襲で中心市街の大半が焼失したが、再び復興し臨海コンビナートや泉北ニュータウンの建設など産業と居住環境の両面で大きく発展。そして平成18年（2006年）に政令指定都市に移行した。

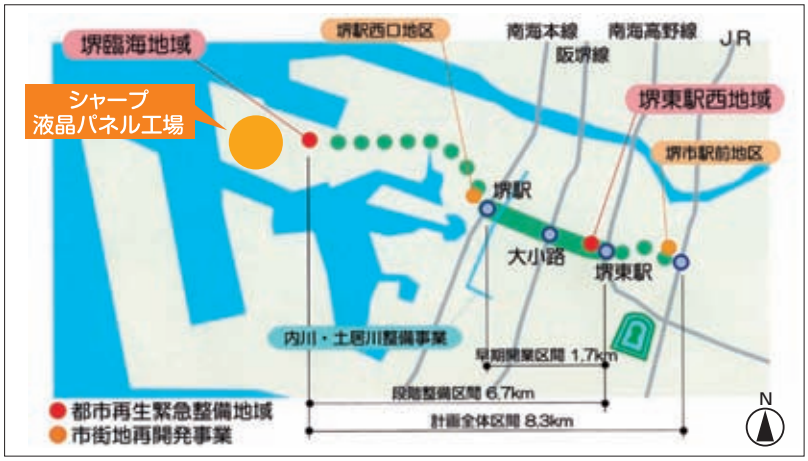
行基のほか千利休、明治期にチベットに入国し日本の学会や仏教界に大きな影響を与えた河口慧海、『みだれ髪』を刊行した女流歌人・与謝野晶子、天才棋士・阪田三吉、喜劇の草分け・曽我廼家五郎など堺にゆかりの歴史人・著名人も多く輩出している。

臨海部のイメージ一新 シャープ液晶パネル工場の進出

そうした自由都市としての歴史を持つ堺市は、平成18年に念願の政令指定都市に昇格した。その翌年にはシャープの臨海部への進出が決定し、市民の明るい期待を集めた。

高度成長期のシンボル・泉北臨海コンビナートは、地元の成長を支えてきたものの、現在では広大な遊休地が発生している。その遊休地をどう有効利用し、どのように地域活性化へ結びつけることができるかは、堺市だけでなく大阪府全体の課題でもあった。

バブル経済期には、臨海地域と隣り合う泉州沖に関西国際空港建設が決定。りんくうタウン開発を含め、兵庫県から大阪府南部までの大阪湾岸一帯の総合開発を目指す「大阪湾ベイエリア法（大阪湾臨海地域整備法）」が関西経済界を中心とする官民一体の働き掛けで成立した。堺市も当時、臨海部の土地利用を目指した構想を打ち上げていたのだが、シャープの進出で新たな局面を迎えることとなる。これは、府の補



助金や市の税制上の優遇策などによる誘致策が功を奏したものだ。仮に行政主導でいわゆる"箱もの"を造っていたら財政上の負担はどうなっていたか計り知れない。

シャープの進出地は堺市堺区築港八幡町、通称「堺浜」と呼ばれるエリアで、新日本製鐵（新日鉄）の遊休地約127haの敷地に、液晶テレビ用パネル工場を約3800億円を投じて建設される予定だ。畳5畳分にも及ぶ大画面テレビ用のパネルを効率的に生産できる「第十世代」パネルを生産、この分野での世界首位を目指す一大拠点になる予定だ。新工場の運営会社にはソニーも1000億円以上を投資し、共同生産する。同社のもう一つの世界戦略製品、太陽電池の工場も合わせて建設、さらに関連企業の進出を見込んだ総投資額は1兆円規模になるという。

建設が進むシャープ液晶パネル工場

シャープが堺浜への進出を正式に発表したのは平成19年7月末。これを受けて堺市は、シャープ進出による経済波及効果を試算している。それによると、関連事業所を含めた工場建設の初期投資額全体を1兆円と見積もったうえで、工場建設による直接効果を約8000億円、雇用拡大効果を約7万人（うち堺市内で4・5万人）とし、液晶パネル第1工場分だけでの生産活動効果を約1兆1000億円、雇用拡大効果を約1万人と試算。市への税収効果として、固定資産税減免などの優遇措置によって当初10年間の累計を190億円としたものの、11年目以降の10年間では累計580億円の税収になると見積るなど、地元では経済・雇用面での期待が高まっている。

ただ、亀山の液晶工場が「亀山ブランド」として定着したように、堺の液晶工場がそのまま「堺ブランド」として世界に発信されるかはまだ分からない。堺商工会議所の関係者によると「ソニーが3割を出資している」ことが響く可能性もあるという。とはいえ、阪神高速湾岸線に近く、関西空港へも至便なうえ、工場付近へは次世代型路面電車LRT建設も市が計画しているなどインフラは整備されている。一大拠点になるのは確実で、それは地元、そして大阪全体にとっての大きなプラス要因になるだろう。

シャープは、液晶用ガラス基盤世界シェア5割の最大手の米コーニング社の進出も呼び寄せた。また、廃木材を主原料とする世界初のバイオエタノール製造の「バイオエタノール・ジャパン関西」など新分野の企業進出も増えてきており、これまで重厚長大型産業のイメージが強かった臨海部が、先端産業・技術の集積地へと変貌を遂げようとしているのは間違いない。

百舌鳥（もず）古墳群、世界文化遺産の登録を目指す堺市

一方で文化面からのアプローチにも積極的に取り組んでいる。

堺市には、世界最大級の規模を誇る仁徳陵古墳をはじめとした百舌鳥古墳群があり、これらを中心に「歴史文化を活かしたまちづくり」がそれだ。そ

自治都市として栄えた当時の面影を今も残す「堺刃物伝統産業会館」

シャープの進出を機に通称「堺浜」の新町名を公募

「街の名前をみなさんで考えてください」。堺市はシャープ新工場が進出する周辺エリアの新しい町名を公募。町名選考委員会を設置したうえで新町名を決定、今年10月にも町名変更する予定だ。シャープと関連企業の新工場の進出・建設や、中小製造業の集積拠点にもなると見込まれる同市堺区築港八幡町の一画が対象。市は、次世代型の産業集積拠点にふさわしい町名を募りたい考えだ。

の具体化として平成19年9月26日、地域的につながりのある古市古墳群を有する羽曳野市・藤井寺市・大阪府とともに文化庁に世界文化遺産候補となるよう名乗りをあげた。

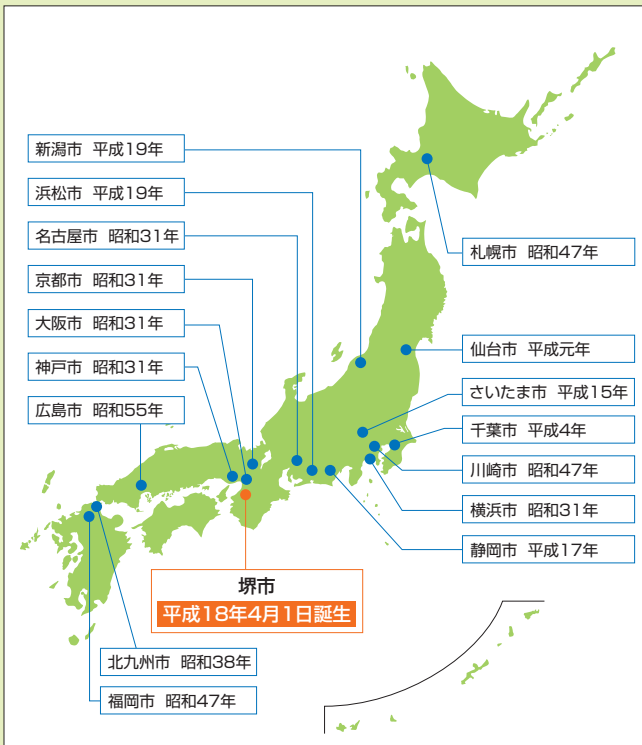
「歴史的経緯からも両古墳群は一体的な形で世界遺産登録を目指すべき」とする堺市の歴史文化都市有識者会議（座長、石森秀三北海道大学観光学高等研究センター長）の意見に基づいたものだ。堺市を含む南大阪地域一帯に現存する古墳群を改めて文化都市づくりに活用しようとしている。

百舌鳥・古市古墳群は最大級の古墳を数多く含むエリアで、一つの古墳としては世界最大の平面積（墳丘長４８６ｍ）の仁徳陵古墳、第2位の応神陵（同４２５ｍ）、第3位の履中陵（同３６０ｍ）を筆頭に、大きさが２００ｍを超える前方後円墳が10基以上あるほか、前方後方墳、円墳、方墳など多彩な規模・種類の古墳が集積している。当時の東アジアとの活発な交流を示す遺物なども多く出土。古代当時の「倭の五王」の墳墓が含まれている可能性が高いとされている。

仁徳陵古墳

世界文化遺産への道のりは、文化庁に提案した後、世界文化遺産特別委員会での審査・選定を経て「世界遺産暫定一覧表」に記載される。そして国がユネスコ世界遺産委員会へ推薦書を提出し、その推薦を受けて国際記念物遺跡会議（イコモス）が審査・現地調査し、世界文化遺産にふさわしいと認められてようやく登録となる。道のりはまだまだ遠いが、現実にこうした文化遺産が多数残っているメリットを生かして、歴史・文化に根ざした街づくりを模索する堺市である。

大仙（だいせん）公園は、仁徳陵古墳の南にある堺市のシンボル的な公園



※年号は政令指定都市への移行年

都道府県と同格の権限を持つ政令指定都市

大都市では、人口や産業の集中にともない高度でさまざまな行政サービスが必要になってくる。こうした大都市特有の問題を解決するために、市民生活に関わりの深い事務に関する権限や財源を都道府県から移譲し、合理的、能率的な執行と市民福祉の向上を図ろうとするのが、「政令指定都市制度」だ。政令指定都市として指定されると、都道府県に代わって道路の管理をしたり、県を通さずに国に対して予算の陳情が出来るなど、都道府県と同格の扱いを受けることができる。地方自治法上は「人口は50万」が指定の要件だが、実勢としては「100万（または現在80万以上で、将来100万になる見込み）」を基準として指定が行われてきた。しかし現在では政府の市町村合併支援の一環として、合併を前提に人口の指定基準が「70万」に引き下げられている。静岡市や堺市はこの優遇措置による指定である。現在の政令指定都市は図の17都市だが、栃木県宇都宮市、岐阜県岐阜市、兵庫県姫路市、熊本県熊本市、岡山県岡山市などが新たな政令指定都市を目指している。

現在走っている路面電車。やがて低床式LRTに替わり政令指定都市にふさわしい景観を担う

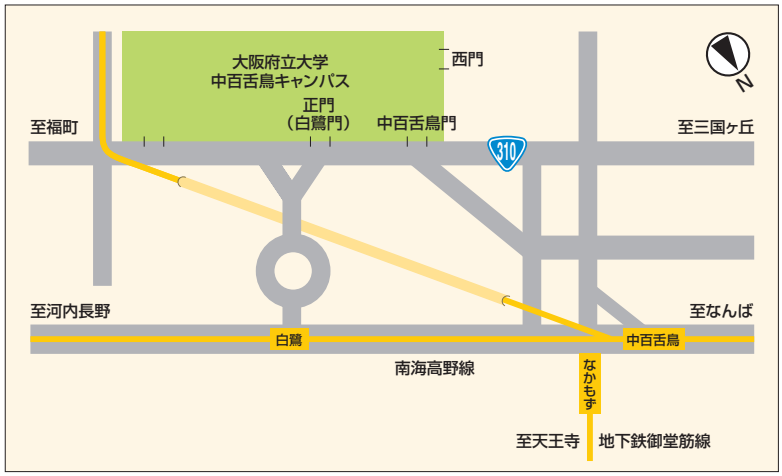
天地創造

夜明け前

大阪府立大学総合教育研究棟新築整備工事

高度な研究・教育を目指すキャンパスに端正な外観、開放的な空間の学舎の建設

平成17年度に三つの府立大学が再編統合して生まれた大阪府立大学。「世界に通用する高度研究型大学」を目指す同大学では、理念にふさわしい施設設備プランが進められている。当工事は、そうした計画の第一弾となるプロジェクトである。



計画的なキャンパス整備のもと高度研究型大学にふさわしい学舎に

大阪府立大学は、堺市中百舌鳥（なかもず）の旧大阪府立大学、堺市大仙（だいせん）の旧大阪府立女子大学、羽曳野市（はびきのし）の旧大阪府立看護大学という歴史ある三つの府立大学を平成17年度に再編統合するとともに、公立大学法人化し、新しい大阪府立大学として誕生したものだ。

中百舌鳥キャンパスには昭和20～30年代に建設された学舎が多く、老朽化が進んでいたため建て替えが検討されていた。また、平成17年の開学と同時に「総合教育研究機構」を創設。学生の個性を尊重し、幅広い見識と高い倫理性を培うとともに、教育の質の向上をはかる高等教育開発センター、大学開放事業を実施するエクステンション・センターなどを設置。こうした充実した機能を集約し、高度研究型大学にふさわしい学舎の整備をはかる「施設設備プラン」が策定された。今回お伺いした総合教育研究棟は、その計画の第一弾プロジェクトである。この建設に続いて、『サイエンス棟』や『先端バイオ棟』などが中百舌鳥キャンパスでは平成21年春の開設に向けて工事中である。

明確な施設・基本計画のもとプロジェクトいよいよ始動

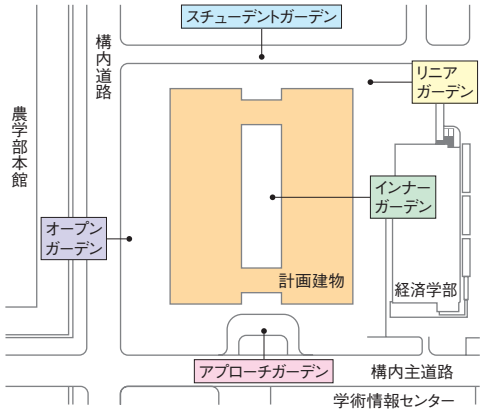
施設計画の立案にあたって策定した条件は、既存施設との調和・コスト縮減・省エネルギーだった。それに基づいた配置・動線・外観・バリアフリーの各計画が策定されていった。誌面の関係上、それらを詳細に紹介できないので、特徴的なものをいくつかご紹介しよう。

●5つの庭に囲まれた施設構成

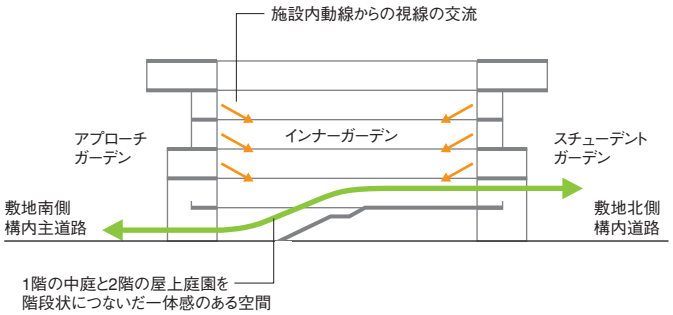
建物の四方に四カ所の庭と、中央に

大きな開口部などで
透明性を高めた外観

■ 施設構成の平面イメージ



■ 有機的につながる庭のイメージ



インナーガーデン（中庭）を配置。各フロアは、このインナーガーデンを囲むように回廊がレイアウトされ、回廊の両側に部屋が配置されている。そのため、どの部屋からも庭を望むことができ、明るい光が差し込む採光に配慮した構成となっている。インナーガーデンには、陽光が降り注ぎ、訪れる人々に開放的な印象を与えると共に、教員・学生たちの憩いと歓談の場ともなる空間である。

●庭との繋がりを重視した外観デザイン

玄関は南面のメインストリートと接している。正面を透明性の高いデザインとすることで、通りからも中庭を見渡すことができ、開放感あふれる意匠となっている。

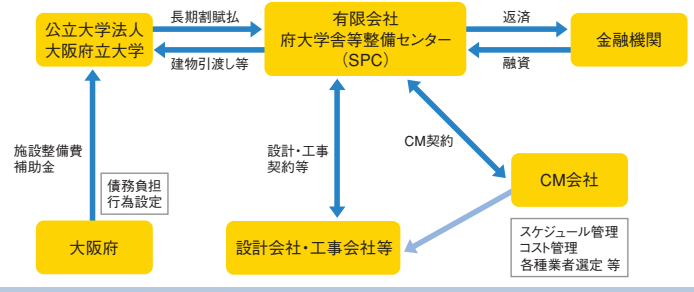
●他施設・学舎との調和

キャンパス内には、さまざまな施設・学舎が立っているが、これらとの調和もテーマのひとつ。ライトベージュ・ライトグレイを基調としたシックな外観カラーは、周囲の建物と調和しながら、研究・教育施設らしい秩序と個性を醸し出している。また、外壁ラインを他の建物と一致させた配置により、視線の抜けと統一感も演出している。なお、外壁面は落ち着いた色調のタイル貼りだが、内部はコンクリート打ち放しのシンプルな

民間の手法・CMR方式による新たな事業スキームで建設

同研究棟の建設に当たっては、CMR（コンストラクション・マネジメント）方式が採用された。CMRとは、1960年代にアメリカで始まった建設の生産・管理システムのことだ。コストや品質に厳しい環境に置かれる民間の建設に主に採用され、建物の価値向上やプロジェクトの工期遅延の防止、予算超過などの防止に役立ってきた。公立大学は法律によって設立団体（同大学の場合は大阪府）以外からの長期借り入れができないことや、コストの削減・透明性の高い事業形態の必要性から模索・開発されたスキームである。その進め方としては、①大学は、大学に代わって学舎整備事業を行う特別目的会社（SPC）を設立する。②SPCは民間会社なので長期借入れも可能なため、金融機関から資金調達を実施する。あわせて事業全般を監督していくCM（コンストラクション・マネジメント）会社を選定する。 ③CM会社は、発注者の側に立って、設計会社や建設会社を厳正な審査の後に選定し、設計内容の検討、工程管理、コスト管理などプロジェクト全般をマネジメントしていく。この手順で進められた結果、CM会社は明豊ファシリティワークス株式会社、設計は株式会社松田平田設計、施工は淺沼・大日本JVが選出された。こうして当プロジェクトは、コストの削減をはかりながら、工期内に高品質な施設の建設を実現したのだ。

■ 学舎整備の事業スキーム

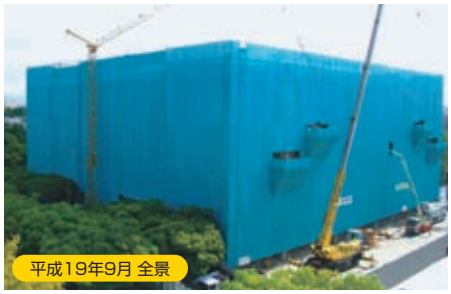


平成19年3月 場所打ち杭打設状況

平成19年5月 全景

平成19年7月 全景

平成19年8月 全景


平成19年9月 全景

平成20年2月 全景

仕様となっている。

●既存の植栽を保存・利用した庭

建て替え前に残っていた植栽は、キャンパスの歴史を眺め続けてきたもの。特に南面のアプローチガーデンの植栽は、高さ約10mの見事なポプラの木で、キャンパスのシンボルツリーともなっているため、建て替えにあたっても伐採することなく、そのまま保存・利用している。

●効率的な動線の実現

同施設は、生涯学習・公開講座などのために訪れる一般の来客と、研究・学習のための教員・学生たちが混在して利用する。そのため、南北二カ所の入り口・エレベーターを利用者別に分離することで、効率的な動線を実現している。南正面エレベーターは主に来客のために、北面エレベーターは教員・学生のために供されることになる。

ご案内いただいた植芝所長は、「この工事は、建物は通常の鉄筋コンクリート造で、新技術・新工法を採用しているわけではありません。ただ大学内の施設であるため、研究・教育の妨げとなる施工中の騒音は極力排除する必要があります。そこで、騒音が出る工程では作業時間に考慮するなど、騒音対策には特に気を使いました。また、センター試験期間中は立ち入り禁止となるため、あらかじめ綿密な施工計画を立案したことや、教員・学生さんたちの安全な往来にも注意を怠りませんでした」、と言われる。工事の現場は、一つ一つその置かれた状況が異なり、それぞれに合わせた施工計画が必要であることを強調された。これに関しては、後ほどさらに詳しくご説明いただいた。

愚直なまでの安全管理
竣工の喜びをみんなで分かつ心

植芝所長は、入社以来30数年間、主に関西を舞台に建築現場の施工管理に携わってこられた。「施工管理は品質・工程・安全・原価が基本なのですが、一方で現場ではコンマ・ミリ単位の施工精度を要求されるケースや、気候・天候などの自然に左右されるケースもたびたびあります。そして、一つの現場がスタートするごとに、環境・条件・工程・工法・人材がすべて異なる単一生産であるため、あらゆる面にわたって、一からの検討が必要になります。そのため、着工前段階での施工計画の立案プロセスがとても重要になってきます。幸い無災害で竣工を迎えることができたわけですが、それは緻密・繊細な施

他の学舎との統一感を意識して、直行するラインで構成された外観デザイン

植芝所長

工計画とその実施体制づくりが大きかったと思います。それに加えて愚直なまでの安全管理。人がすることですから、慣れや油断からミスはどうしても起こります。そのときのヒューマンエラーを災害へと繋げないこと、それがこの現場で徹底した安全管理です」、と胸を張る所長だ。

施工中には、大阪府と当協会主催による府立工科高校の「建設現場見学会」を開催した。「将来建設業界を志望する学生たちが、初めて目にする建設現場最前線。そこに未来の自分の姿を重ねて目を輝かせているのを見ると、昔の希望に溢れていた私を見ているようでした」と、植芝所長は顔をほころばせた。

職長会主催による「竣工お披露目会」も開催した。このプロジェクトにかかわった者の家族を招待して、家族の皆さんへの慰労で一年間の工事を締めくくろうとするものだ。「あなたのお父さんが朝早くから出かけて、一年間かけて造ったのがこの建物です。そして一人の、一件の事故もなく無事完成できたのは、家族の皆さんが影で支えてくださったからです。そうした感謝の気持ちが、私たちの側ではなく、職長会から出てきたのもうれしいことでした」、と。「一致団結・協調の精神・お互いを思いやる気持ち、こうした意識を啓発することができたことは、技術屋人生にとっても忘れられない一ページになりそうです」、そうお話しになる所長の言葉が、この作業所のすべてを物語っている。

■工事概要

名　　称：大阪府立大学総合教育研究棟
　　新築整備事業（工事）
所 在 地：堺市中区学園町1番1号
工　　期：平成19年2月～平成20年3月
構　　造：鉄筋コンクリート造
規　　模：地上6階、塔屋1階
建築面積：2569.30㎡
延床面積：13721.09㎡
発 注 者：有限会社 府大学舎等整備センター
ＣＭ会社：明豊ファシリティワークス 株式会社
設計・監理：株式会社 松田平田設計
施　　工：淺沼・大日本特定建設工事共同企業体

CONTENTS

対談　OSAKA粋談放談

新会長のフレッシュ・トーク
「会員会社の皆さんのために尽力したい（奥村会長）
女性落語家のための道を開きたい（桂あやめ）」

落語家　桂　あやめ さん
社団法人 大阪建設業協会　会長　奥村　太加典　1

おおさか なう

「懸案の交通インフラに
路面電車を選択する堺市」　7

特集　OSAKA PRESENTATION

「黄金都市」の復活を目指す堺市

「先端産業の整備と、歴史・文化面の特色を活かし
新しい街づくりを推進する堺」　9

ドキュメント　天地創造夜明け前

大阪府立大学総合教育研究棟新築整備工事

「高度な研究・教育を目指すキャンパスに
端正な外観、開放的な空間の学舎の建設」　13

編集後記

いつもO-WAVEをご愛読くださいましてありがとうございます。巻頭の対談では、女性落語家・桂あやめさんにご登場いただきました。現在のような落語ブームでもない頃に、落語に魅せられ、男の世界に飛び込んだあやめさん。「女性のための道を開きたい」とおっしゃるあやめさんに対して、「建設業界でも女性の活躍できるシーンがたくさんあり、大きな期待を寄せている」と会長が返すなど、対談はなごやかに弾みました。現場取材は大阪府立大学の学舎の建築工事です。「工事に携わった者がお互いを思いやり、一致団結して進めることができました。きっと技術屋人生の忘れられない一コマになるでしょう」と、感慨深げに語られる植芝所長の言葉が印象的でした。O-WAVEはこれからも建設の現場で活躍する人々の姿をお伝えしてまいりますので、変わらぬご支援とご愛読をお願いいたします。

O-WAVE
広報誌オーウェーブ　Vol.61

2008年5月1日発行

■発行　社団法人　大阪建設業協会
■企画・編集　広報委員会
■協力　日本マーケティング株式会社

〒540−0031　大阪市中央区北浜東1番30号
大阪建設会館内
TEL.06−6941−4822
FAX.06−6941−3499

URL=http://www.o-wave.or.jp/

大阪の未来を創造する

（社）大阪建設業協会の会員

青木あすなろ建設（株）大阪本店
（株）淺沼組
（株）安部工務店
安藤建設（株）大阪支店
（株）イチケン関西支店
（株）今西組
岩出建設（株）
梅林建設（株）大阪支店
栄和建設（株）
（株）榎並工務店
大木建設（株）大阪支店
大西建設（株）
（株）大橋組
（株）大林組
（株）大本組大阪支店
（株）奥村組
奥村組土木興業㈱
（株）長村組大阪支店
（株）尾田組大阪営業所
（株）鍛治田工務店大阪本社
鹿島建設（株）関西支店
（株）金山工務店
（株）紙谷工務店
北野建設（株）大阪支店
（株）木村工務店
共立建設（株）関西支店
清田軌道工業（株）
（株）熊谷組関西支店
栗本建設工業（株）
（株）小池組大阪営業所
公成建設（株）大阪支店
コーナン建設（株）
（株）鴻池組
櫻井工業（株）
佐藤工業（株）大阪支店
三陽協同建設（株）
三和建設（株）
清水建設（株）関西事業本部
下村建設（株）
（株）昭和工務店
杉本建設（株）
西武建設（株）西日本支社
生和建設（株）
積水ハウス（株）
（株）錢高組
大幸建設（株）
大昭工業（株）
大成建設（株）関西支店
大鉄工業（株）
太平建設工業（株）
大豊建設（株）大阪支店
大和興産（株）
大和ハウス工業（株）
髙松建設（株）
（株）竹中工務店
（株）竹中土木大阪本店
（株）辰巳工務店
田中建設（株）
（株）谷安組
壺山建設（株）
鉄建建設（株）大阪支店
（株）トーヨーテクニカ
戸田建設（株）大阪支店
飛島建設（株）大阪支店
（株）鳥居工務店
中井エンジニアリング（株）
（株）中野組
（株）ナカノフドー建設大阪支社
中林建設（株）
（株）中道組
奈良建設（株）大阪支店
南海辰村建設（株）
南野建設（株）
南部建設（株）
西田工業（株）大阪本店
西松建設（株）関西支店
（株）日新工営
日本建産（株）
（株）能勢工務店
野村建設工業（株）
（株）間組大阪支店
（株）長谷工コーポレーション
（株）ハンシン建設
（株）ピーエス三菱大阪支店
（株）樋口組
（株）久本組
（株）福田組大阪支店
富国建設（株）
藤井建設（株）
（株）藤木工務店
（株）フジタ大阪支店
（株）不動テトラ
（株）前田組
前田建設工業（株）関西支店
（株）増岡組大阪支店
松井建設（株）大阪支店
（株）松村組
丸一建設（株）
（株）三木組
三井住友建設（株）大阪支店
村本建設（株）大阪本社
望月建設（株）
（株）森組
（株）森長工務店
（株）森本組
（株）吉田組大阪支店
龍華土建工業（株）
立建設（株）大阪支店
りんかい日産建設（株）大阪支店

（2008年 4月1日現在 50音順）

表紙について

建物の中心にレイアウトされたセンターコート（中庭）。陽光が降り注ぎ、訪れる人々に開放的な印象を与えると共に、教員・学生たちの歓談の場となる空間だ。

撮影　奥脇 孝一

シネマの中の大阪 ― 船場 ―

ぼんち

日本映画界の大御所、市川崑が描いた船場商人の気骨と哀愁

『ぼんち』は週刊新潮に連載された山崎豊子の原作を、市川崑とその奥さんであった和田夏十が共同で脚色し、市川崑が監督して撮影されました。主人公はひょうひょうとして、どこか浮世離れした足袋問屋の旦那、喜久治（市川雷蔵）。ぼんぼんとして生まれた彼が、祖母との確執を窮屈に感じつつ、遊び人として、また商売人として成長していく様子を追いかけた物語です。社会の空気が戦争の気配に支配されていく時代を描きながらも、主人公「喜久ぼん」の何とも言えない人間的魅力がこの作品を味わい深いものにしています。美しい色彩、大胆なカメラアングル、日本家屋を生かした画面構成、生気溢れる女優陣、純日本風の映像にマッチするジャズ調の音楽等、贅沢で見所いっぱいの作品です。当時の大映の撮影水準の高さも相まって、多くの傑作映画を手がけた市川崑監督の代表作のひとつに数えられています。

発売：角川映画
販売：角川エンタテインメント
価格：¥4,935（税込）

市川崑は、大作『東京オリンピック』の後に人形劇『トッポ・ジージョのボタン戦争』を手がけたり、横溝正史原作のミステリー『獄門島』、『女王蜂』、アニメ合成を駆使した『火の鳥』を制作するなど、活動の幅は広く、その作風は実に多彩。昭和の日本映画黄金期から21世紀初頭まで第一線で映画制作に取り組みました。2008年2月13日、逝去。

昭和35年（1960年） 大映京都

- ◆監　督　市川崑
- ◆原　作　山崎豊子
- ◆脚　本　市川崑、和田夏十
- ◆出　演　市川雷蔵、若尾文子、中村玉緒、草笛光子、越路吹雪、山田五十鈴、船越英二、京マチ子、中村鴈治郎

物語の舞台となった船場界隈

PRINTED WITH SOY INK
R100
本誌は再生紙を使用しています